

## 有権者になる私たちに何ができるのか

南那珂支会 代表 森 隼人

「選挙で政治が変わるわけがない」「自分が投票したところで何もよくなりません」と思っている人は多いのではないのでしょうか。ただ、「投票しても変わらない」ではありません。「投票する気が無いからかわらない」のです。

現在日本が抱えている問題として、政治への無関心があります。昨今行われた衆議院選挙では全体投票率55.93%、戦後3番目に低い数字でした。さらに10代の投票率は約43%と、全体投票率よりも低い数字になっています。では、どうしたら得票率を上げることができるのでしょうか。

一つは投票制度上の問題があると思います。現在は、期日に指定された投票所で、7時から20時までに投票することになっています。期日前投票制度もありますが、投票所が限定されています。政治に関心の薄い若者にとって、日曜日に投票所に行って投票することは面倒くさいことかもしれません。そこで、インターネットで調べてみると、一例として、駅やショッピングモールといった日常生活に近い場所に投票所置く方法が掲載されていました。

確かに、気軽に行ける場所なら投票率を上げるのに有効な手段です。それをさらに広げて、コンビニや自分のスマホから24時間いつでも投票できれば確実に投票率は上がるのではないのでしょうか。マイナンバーカードを活用した個人番号と暗証番号で管理すれば不正を防ぐことも可能です。また、投票サイトと政治家としての目標などを連動させればより投票しやすくなると思います。このように投票制度を改革することも今後考えていかなければなりません。

しかし、一番重要なのは政治にほんの僅かでも興味を持つことです。「自分の声なんか聞いてくれるわけがない」そう思い込んだりしないでください。皆が束になって投票すれば、声もおのずと反映されます。まずは自分が僅かでも共感できる議員を選んで投票してみてください。その1票1票が集まれば、私たちの声は届くはずで、そして、この日本という国を国民の声をしっかり反映してくれる、そんな国にしていきたいと思います。

私は、日南振徳高校の福祉科2年に在籍しています。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、思うように現場での実習ができない状況ですが、今私たちができることに一生懸命に取り組んでいます。また、将来は介護福祉士になりたいという夢があります。しかし、今の介護福祉士は、休憩時間や睡眠時間、給与の面でも十分な職場環境とは言えません。また、コロナ感染の影響で医療現場は逼迫した状態にあります。それらの医療・福祉の問題には、勤務形態の見直しや給付金の増額など積極的な打開策と手厚い支援が必要です。私はもうすぐ有権者

になります。自分が政治を担う1人として、これらの問題に全力で取り組んでくれる候補者に投票したい。私の声は必ず届くの信じて投票したいと思います。